

令和7年度 中学生の「税についての作文」

緑優良申告法人会 会長賞

多角的に「税」を見ること

横浜市立あざみ野中学校 第三学年 浏野 紗彩



「税」の作文を書くにあたって、私はあることを思い出しました。私の住む横浜市ではつい最近、市長選挙が行われました。その選挙中に目にした公約の中で、「みどり税」の見直し、もしくは廃止を掲げる候補者が多かったことを思い出したのです。私は、「みどり税」が一体どのようなものなのか興味がわき、調べてみることにしました。

みどり税は横浜市独自の税で、平成二十一年から五年ごとに段階的に進められている、「みどりアップ計画」の財源の一部として活用されています。この税によって横浜市民は年間で一人あたり九百円の法人は年間で、払っている個人税の九パーセントの課税が義務付けられています。これと似たものに、国が実施している「森林環境税」というものもありますが、この二つは目的や使い道が大きく異なります。森林環境税は、林業が成り立たない地方の森林を整備したり、国産木材の利用を促進したりするなど、国の森林をみんなで守っていくために創設されたものです。一方みどり税は、市内の樹林地や農地を買い取って整備したり、農業や森林にふれる機会をつくったり、市内の緑を増やしたりするなど、横浜のみどり豊かなまちなみを未来に残すために創設されたものなのです。

私はこのことを知り、みどり豊かな横浜の景観が未来に残ったとしても嬉しいと思いました。横浜は、桜並木や竹林、紅葉など、たくさんの自然であふれています。私はそんな横浜が大好きです。そのため、みどり税の課税は良いことだと思いました。

しかし、最初に述べたように、みどり税の見直しや廃止を訴える人もいます。それは、市民が緑が増えていることを実感できていないからです。実際に横浜市のホームページを見ても、横浜市の緑被率は年々減少してきていることがわかります。物価高騰によって生活が苦しい今、効果が期待できないと感じるものにお金を払うのは抵抗がある。そう感じる人が少なくないのです。

私はこの意見を知り、方針だけを見て課税に賛成するのは甘い考えだったと思い知らされました。税の内容は国会や地方の議会によって定められますが、実際に税を納めるのは私たち国民なのです。私たちは、定められた「税」が本当に必要で、それが適切に、正しく使われているのか見定める必要があるのです。では、それを見定めるにはどうすればいいのでしょうか。まず、見定めるための知識をつけること。それができれば、その知識を使い、「税」を様々な方面から多角的に見ることが大切だと考えます。

将来、自分の意見をもったうえで納税ができるように、日頃から勉学に勤しんだり、新聞やニュースなどから積極的に情報を得たりして知識をつけ、「税」を多角的に見ることを意識して生活したいです。

